



海底隆起箇所を通る仮設迂回路



路面陥没



地すべりエリア 斜面崩壊



地すべりエリア 路面崩壊

## お詫びと訂正

議会だより秀峰5月号1ページ及び2ページで平成と誤表記がありました。  
令和の間違いですので、お詫びして訂正いたします。

## 編集後記

稲の穂も出てきて順調な生育が嬉しいこの頃です。  
毎日暑い日が続いています。熱中症などには十分ご留意ください。特に草刈りなどの農作業時には、休憩とこまめな水分補給をぜひともお願いします。  
高知東警察署からの注意喚起として、詐欺に遭われる高齢者が大変多いと聞きました。大切な皆さまの財産を無くさないよう、不審な電話などがありましたら家族や役場、警察に相談してほしいと思います。

議会だより秀峰も、誤字脱字には十分に注意し今まで以上に「読んでもらえる、読みやすい」秀峰を目指しますので、ぜひご意見や感想をいただければ幸いです。

広報編集特別委員会 委員長  
森 一芳

### ご意見や感想は

大豊町議会事務局 TEL:72-0450 (ピカラ)72-0850

## 教育民生常任委員長

### 三谷よう恵

●調査日時  
令和8年4月20日(月)  
午後1時00分～午後4時30分  
21日(火)午前8時30分～午後2時30分

●調査場所  
石川県輪島市、珠洲市ほか

●調査事件  
災害復興に関する調査について

●調査結果  
20日には、輪島市門前町黒島地区を視察した。地区住民の三村氏から地震の状況や地域の歴史等説明を受けた。黒島地区は、江戸時

設道路が作られ災害対応等の車両が通行していた。  
今回の視察において、株式会社技研製作所能登復興支援室の協力を得て、地震による隆起対応、地滑り対策工事など災害復旧への高い技術力を垣間見ることができた。それにより最短で工事が完了できるなど復興が進んでいることを確認した。

活が元に戻るには3年から5年以上の時間がかかるのではないかとと思われる。自然災害はいつ起こるか分からない。特に日本では地震が頻発していることから、防災意識を高めることが重要であると感じられた。

日ごろからの備蓄品(飲料水・食料・衣類等)や災害時の行動計画(避難場所等)、インフラが停止した時の代替案(蓄電池・ラジオ等)、などを備える心掛けが大事であると感じた。

代に北前船による海運業の発展とともに栄え、海岸沿いの船主集落が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震で、海岸線が海側に大きく移動し、同地区の面積は1・3倍に増大された。本来なら船が停泊している港は、海底が隆起し陸地になっていた。地区の家々も被害を受け、改修工事が行われていた。黒色の瓦屋根や格子、外壁の下見板張りの伝統的な美しい街並みを復元するために、輪島市も補助事業で対応している。

21日は、朝から株式会社技研製作所能登復興支援室2名の方同行いただき、輪島市、珠洲市の被害状況や復興状況の説明を受けた。車窓から外を眺めながら、家々の中に点在する基礎だけが残った更地、傾いたままの電信柱、各地にある仮設住宅等の光景が目についた。

また、能登半島の主幹道路である国道249号は、開通しているというものの整備はまだまだ不十分で、大規模な工事は至るところで同時進行し、そのため隆起した新たな海岸の陸地に迂回路をつけているところが何箇所もあった。

珠洲市では、復興支援ツアーガイドの宮口氏から、被害状況や徐々に進む復興の様子等の説明を受けた。宮口氏自身が被災者であり、避難所生活を送っていた。避難所では、自然と炊き出し係となり、物資調達に奔走したそうだ。宮口氏



災害復旧工事 視察

は「待っていても、行政は来てくれない」「自分たちだけに食料があるのではだめだ。避難している被災者全員に食料を調達しないといけないと思った」と話された。当たり前のことが、非常時にできる行動力に感服した。

今回の調査では、改めて自助、共助の大切さを実感した。南海トラフ地震に備えて、今回の能登半島地震を教訓に住民への啓発が必要と感じた。